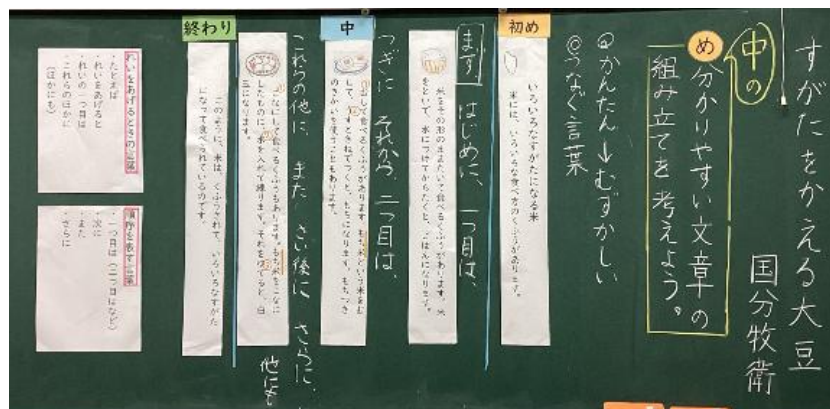


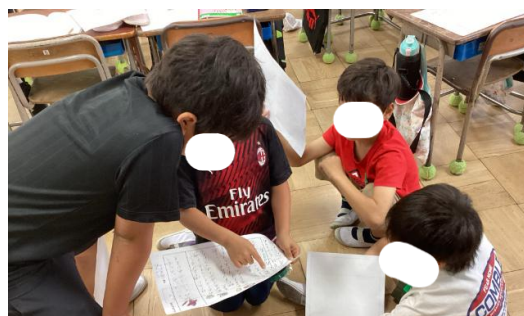
3年 「すがたをかえる大豆」～「活用」編～

この場面では、読み取った「紹介の仕方」を活用し、自分が気になった食べ物のくふうや姿の変化について紹介する文章を書く学習を行いました。本実践では、子どもたちが「読むこと」と「書くこと」をつながけながら、文章の構成や表現を主体的に工夫できるようにすることを意図しました。

まず、自分の選んだ材料について調べる場面では、調べた内容を食品ごとにカードに整理しました。文章の組み立てを考える場面では、そのカードを並べ替えながら構成を検討しました。事例を一つずつカード化することで、



順序を自由に入れ替えながら、読む人にとってわかりやすい構成を自ら見つけ出す姿が見られました。



次に、実際に文章を書く際には、「たとえば」「これらのほかに」などの表現を活用し、事例どうしの関係に合わせた接続語を使おうとする工夫も生まれました。できあがった文章友だちと読み合い、推敲する場面では同じテーマの友だちと読みあったり、違うテーマの友だちを読み合ったり目的に合わせて相手を選びながら

交流しようとする姿が見られました。互いの意見を取り入れながら、よりよい文章に仕上げようとする意欲的な姿が印象的でした。

最後に、書いた文章を栄養士の先生に読んでもらいました。食べ物の「くふう」と「姿の変化」に注目して調べ、まとめたことが伝わる内容になっており、子どもたちは自分の学びが実際の専門職の先生に届いたことに喜びと達成感を感じていました。さらに、給食の時間にはその日の献立に合わせて子どもたちの文章を紹介する場面を設定しました。書いたものが実際に掲示されたり、聞いてもらえたりする場を設けることで、子どもたちの書く意欲のいっそうの向上につなげたいと考えています。

